

日時：令和2年11月25日（水）午後6時30分～7時30分

会場：高浜市役所 会議棟

出席者：大人チームメンバー 13人（欠席8人）

企画部…深谷部長、榊原GL、京極主任 事務局…山本副主幹、中村主事、多武

(1) キャンペーンの景品について

◆前回の全体会議の中で若者チーム・女子ーズと一緒にキャンペーンの景品について案を出し合い、この日はその案の中からその景品にするのかを決定しました。



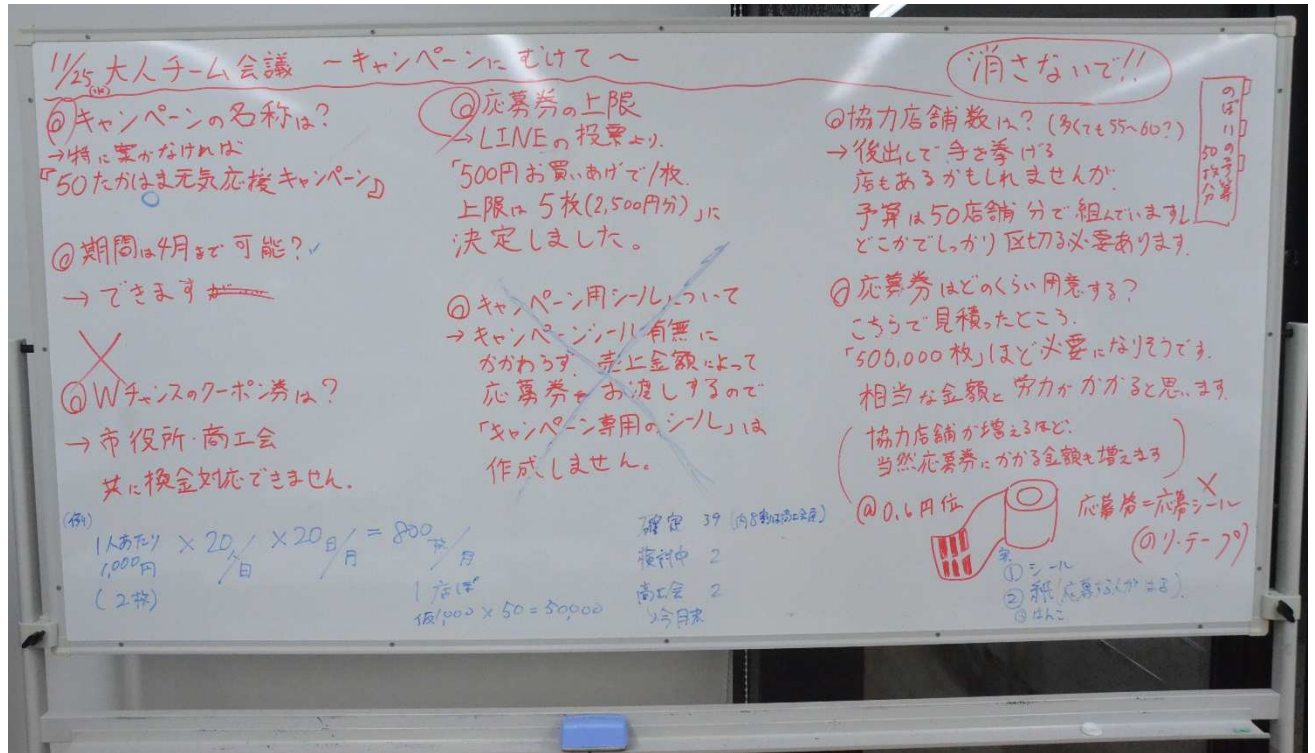
・大人チームのメンバーに「2,000円相当」「10,000円相当」「40,000円相当」それぞれの景品が投票していただきました。その結果…

- ★1等…旅行券（40,000円相当）1名様
- ★2等…Yogibo（20,000円相当）2名様
- ★3等…かばん・大きめのリュック（20,000円相当）2名様
- ★残った予算内で、ビール券・市内のお菓子セット・オリジナル食べ物参加店の商品券・とり飯食事券

という内訳に決定しました。

(2) キャンペーンに向けての話し合い

◆前回の大人チームメンバーでの話し合いの振り返りと認識共有、懸念事項について話し合いを行いました。



■キャンペーンの名称は？特に案がなければ「50 たかはま元気応援キャンペーン」を名称とするのはいかがでしょうか？

- ・グループラインやこの場でも特に案は出てこなかったため、キャンペーンの名称は「50 たかはま元気応援キャンペーン」に決定。

※チラシの中に「みんなが眼を輝かせるオリジナル食べ物事業」の文言は必ず入れる。

■キャンペーン期間は4月まで可能？

- ・できます。が、期間を延長することで新たに応募券等消耗品にかかる金額が追加でかかることが心配です。

■Wチャンスのクーポン券は？

- ・前回の会議にて、市役所で換金するのは難しいとお話しましたが、商工会にも確認したところ、商工会でも換金することは難しいと回答をいただきました。

今回のキャンペーンではWチャンスのクーポン券はできないという結論になりました。

■応募券の上限について

- 先日までグループラインにて「応募券の上限を5枚とする」「上限は設定しない」の二択で投票を受け付けていましたが、こちらの結果、「応募券の上限を5枚とする」が多数を占めましたので、応募券のお渡し方法は「500円お買い上げごとに応募券を1枚、応募券の上限は5枚（2,500円）とする」に決定いたします。

■「キャンペーン用のシール」とは？

- 前回のアンケート結果では「オリジナル食べ物でなくてもその店のおすすめ商品にキャンペーン用のシールを貼ってもらう」となっていた一方で、「オリジナル食べ物以外の商品も応募対象商品とする」「キャンペーン用のシールの有無にかかわらず、売上金額によって応募券をお渡しする」という結果もでていました。

キャンペーン用シール関係なく応募券をお渡しするのであれば、キャンペーン用シールを貼らない…そもそも作成しないということにはいかがでしょうか？

→キャンペーン専用のシールは作らないことに決定。オリジナル食べ物事業として当初から貼っていただいているシールについては、引き続き貼っていただくことになっています。

■キャンペーン協力店の数は？

- 今現在で検討中の店舗含めて協力店舗は41店。商工会経由の募集は11/30期限となっているが、期限後やキャンペーン開始後に「キャンペーンに参加したい」と手を挙げる店舗が出てくるかもしれない。予算については50店舗分で組んでいるため、際限なく店舗を増やすのは現実的ではないです。あくまで協力店舗は原則50店舗とします。（後出しで手をあげる店舗があっても、55～60店舗が限度？）

→現在商工会経由の募集で2店舗が手を挙げている。ただ、ここからすごく増えることは考えにくい。

■応募券の枚数について

- 事務局でキャンペーンに必要な応募券枚数の概算を出してみたところ、多く見積もって「500,000枚」程度必要になる可能性が出てきました。想定していたよりも多くの応募券が必要となり、また、期間を延ばす・店舗数をさらに増やすということになると、当然その分の応募券が必要となり、予算を圧迫することになります。

→実際に協力していただく店舗に、客数や客単価を聞き取ったうえ、その店で必要な応募券の枚数をあらかじめ把握したほうがいい。

⇒事務局でどのくらいの応募券が必要なのか、より細かく確認。

- 応募券を「シール」とした場合、シールが貼ってあるシートをそのまま店舗にお渡しするわけにもいかないため、1枚ずつこちらで切る作業なども発生します。

→応募券はシールではなく「紙」にして、のりやテープで応募はがきに貼ってもらうのはどうか？

→1枚ずつ渡さなくても、5枚つづりみたいに分かりやすい数にして渡せば店側も対応できるはず。

→シールではなくスタンプにするのはどうか？

⇒シールではなく、紙で対応。紙にすることでシールよりもコストが浮く可能性が出てくるので、キャンペーン期間延長に対応可能かもしれないです。

スタンプという案も考えましたが、金額的にはシールとあまり変わらなさそうでした。

・現在オリジナル食べ物事業のシールは和夫さんに印刷していただいておりますが、この数の応募券を作成していただくのはさすがに困難です。

→印刷については委託するなどの対応を検討。

最後に記念撮影を行いました。



●既にオリジナル食べ物事業に参加していただいている店舗について、あらためてキャンペーンの趣旨を説明しに行くこととなります。場合によっては「キャンペーンは辞退」される店舗さんが出てくるかもしれません。

こちらの声かけについては、順次事務局を中心に手分けしていくことを考えています。

●景品のなかに「市内のお菓子セット」「オリジナル食べ物参加店の商品券」が挙がりましたので、声掛けの際に各店舗へ「景品として商品を出すことはできますか？」「お店独自で商品券を作っていただくことは可能ですか？(市や商工会では換金できないため)」ということも合わせて聞きたいと考えています。

◎次回大人チーム会議開催日時 12月23日(水) 18:30～ 会議棟(予定)